



TITLE:

僧侶と労働問題

AUTHOR(S):

財部, 静治

CITATION:

財部, 静治. 僧侶と労働問題. 経済論叢 1922, 14(5): 912-917

ISSUE DATE:

1922-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127898>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 五 號 第 十 四 卷

大正十一年一月一日發行

論 叢

マルクスの比例的關係の鐵則
法學博士 河上 肇

租稅立法に於ける階級打算的態度
法學博士 神戸 正雄

社會哲學に於る主意的二元論的忠想
法學士 恒 藤 恭

我が國民所得の地方別研究
法學士 汐見 三郎

時 論

間接稅の整理を論ず
法學博士 小川 郷太郎

說 苑

功利主義と生産政策
經濟學士 堀 經 夫

地學觀社會學說に就きて
法學博士 財部 靜治

雜 錄

僧侶と勞働問題
法學博士 財部 靜治

舊岡山藩の井田法
經濟學士 黑 正 巖

雜誌 録

僧侶と労働問題

財部 靜治

近年労働問題喧しくして、歐米の諸新説は昌んに紹介せられたり、而も論壇を賑はしたる諸名論中、本邦現在の事實に、忠ならんことを期しつつ、立てられたるもの幾何かある、吾人は之を知らず、而も亦後の立場を重んずる際、都會に於けるものは兎も角とし、田舎に於ける労働爭議につき、地方の社會にては潜勢力に富める、幾萬の僧侶をして、問題の解決上如何に助力せしむるを可とすへきか、大問題として攻究するゝの要あるは、何人も想ひ及ふへき所なり英國に於て、多年の實際経験を積み、雇主より見たる労働の經費、諸國労働者の教程比較、労働時間とその教程との關係等につき、一家言を立てたる著書「仕事及賃銀」を著はして、その名あ

る Thomas Brassey (一八〇五—七〇) 著の「Lectures on the Labour Question, 3. ed. 1878」中、右の問題に關聯して、少しく論せる所あり、素よりその所論奇抜なりとするを得ず、又英國農村とその經濟事情、社會事情を異にせる、本邦農村にその儘之を當てはむるを得ずと雖も、著書が序言に言へる如く、問題の觸るゝ範圍は、「實入り多き土壤なり、されどそれは農夫の刻苦に待つ所あり」The Soil is fruitful; but it demands the labor of the husbandman とするの趣旨に則り、その刻苦を積み行く道程よりせば、一概に陳腐として棄て難きものあるを以て、今その大旨を摘録することとせり。

問題は極めて重大なるも、之が解決につきては困難に充てり、多くの僧徒は是等の事項につき、その信徒に注告を與ふるよりも、寧ろ沈黙を守るの、途を選ふへきは疑を入れず、されどかかる選擇は、嘉納され得へきに非ず、蓋し俗界のことたると、精神界のことたるとを問はす實際困難を告ぐへき、諸問題の何れにつきても

敎界の人々より助言を受くるの必要は、敎會の信徒中最も無知なる人々により、痛切に感ぜらるる所なればなり、而して僧侶の公平なる助言を、最も必要ならしむべきは、特に田舎の地方にあり、そは僧侶を以て、寺區に於ける唯一の敎育ある紳士と、すべきこと珍しからされはなり、されど又敎會が無知及貧困なる民衆の間に處し、一事業を仕遂げんとするも、僧侶かその間に立ち、身體上精神上の欲求を、救ふに貢獻するの能あるに非ずんは不可能なり、一地方の住持は布敎師同様日常生活に關する事項につき優れたる知識及判斷を示すことにより、又俗衆の知識見聞の程度を察し、之を呑み込むことにより、精神的なる一勢力を收むるの要あり、予は説けり、助言者としての僧侶の仲裁を、求むることとなり易きは、都市に於けるよりも寧ろ田舎にありと、而して僧侶として仲介の勞を探るため、異常の困難を訴ふべき場合は、大借地農と之により雇傭さるゝ、勞働者との間に於ける、爭議の際にあることも、一樣に確かな

り、夫れ田舎に於ける僧侶は、主として地主及有福なる大借地農にたよりて、その任意なる喜捨を求め、依りて敎育事業、貧民救済に當り、敎會の組織を支へ、相當なる秩序威嚴を備へつゝ、宗務を盡し得べき者なり、されは是等の最も有力なる友達の、偏見又は利益に反抗するが如き、田舎の寺區に於ける、住持の身としては強き道德的勇氣を必要とし、多分又その身を捨てゝかゝるの、要あるべき事業なり、他の一面に於て、僧侶かその意に逆らふことを、不利とすべき人々の、機嫌を採らんとするの一念より、不知不識その判斷を偏せしむるに至り、その結果信徒中貧困なる分子の、至當なる要求に對する判斷、公平なるを得ざりしものぞせんか、最早夫等信徒の、敬愛を繋ぐの聲望を、保ち得ることとなり、その一層重大又肝要なる、任務を果たし得ることとならん、この種の大困難は、近年 Norfolk 及 Suffolk に於て經驗せられたり、又予か報告に接せし所によれば、Oxfordshire の諸地方にありても亦然り、予か特に是等

の地方を擧ぐるは、その事實か夫等の地方に於ける教界の友人より、その各自の寺區内に起れることにつき、報告を受けたる所なり、かくて他の地方に於ける事情の、例證に供し得んかと想へはなり、即ち Norfolk にては、賃銀値上げのために労働者間に起れる騷擾は、地方僧侶中多數の人により反對されたり、予は同地方に於ける、農業労働者による賃銀値上げの要求に關し、是非の意見を下すを得ず、されど騷ける一群衆か、相手構はず言ひ出せることは、労働者の間に大なる期待を激發せる際、僧侶か労働者の要求に反對すべき、大借地農と提携せることを發見し、最も苦き失望を、經驗せるや確かなり。

思慮を環らさず、教育を受けること不充分なる、聴衆に對し、演へられたる無分別の謬論により、幾多の害惡加へらるること、あるべきは疑ふ能はず、人心を收攬するの目的上、容易なるこの同一方便は、各時代の群衆煽動家により採用せられたり。(俗衆か如何に甚たく、かゝる煽動

の誘惑に、乗せられ易きかにつきては、社會心理に關する諸著書、特に Ross Social Control and Social Psychology 參照)

されど労働者階級の間^{に於ける}煽動は、何れの場合にも阻止さるへしとすへきに非ず、現に一八七〇年の教育條令 Education Act 制定せられし以前、又農業労働者の潜伏せる精力に對し、一刺戟か Mr. Arch の勵獎により、加へらるるに到らざる間、英國の僻遠なる地方民は、卑賤の境遇に處するも、平氣たり又人にたよるの狀況を呈したり。

かく労働問題につき、貧者に分別ある忠告を興ふるは、教會の義務なるか、その間實際の見地より、極めて重大と認むべきか如く、一爭議の得失に鑑みて、有力なる一意見を立て、進みて之を主張するの確實根據は、僧侶として何處に之を求むべき、一面労働階級民の諸要求に關し、寛大なる見解を嚴守するは、僧侶の義務なり、されど他の一面には、貧者を鼓舞し、神か彼等に授けし運命に、安んせしむるもその義務なり、後者に含まるゝ義務、即ち從順の義務は

之を果たすこと何れの時代にも、容易なりとするを得ず、素より万人皆指導者たるを得ず、而して勢力ある者に對する、大膽なる批評家にして、少しにてもその支配者の、諸責任及諸困難を解する者なし、この困難なる從順の、教訓を教へこむは、教會の義務なり、而も亦漠然たる野心は、現時の勞働者によりて懷かれ、その衆庶の心を動かすを以て、就中多くの勞働者は、かゝる教訓に離叛するを發見せん Lord Belling-broke は言へり「Socrates は説くを例とせり、何人も學へることなき、一業に當らんとすることなし、最も輕易なる業につきても亦然りと雖も各人は一切の諸業中最も困難なるもの、即ち政治の業につきては、之に當るの資格ありと考ふと、彼は希臘にて積める經驗を、土臺として説けるも、假りに現時の英蘭に遇へりとするも、その説を易へざりしならん」と、而して政治組織につき眞なることは、工業商業の組織につきても眞なり、工業製作のため、又は建築家技師の大觀念を遂行するため、多數人の熟練及腕力を

結合せしむるの要ある所にては、有力者の指導と、卓越せる判斷とは肝要なり、農産手續は一層輕便に營まるゝこと通例なるも、之にありても亦その成功のためには、指導心と資本の源泉と存すること、同様に肝要なり。

精神的事項に關する、農村細民の忠告者は、知足及從順の義務を、之に教ゆるの要あるのみならず、その細民かその世俗的地位を、改善せんとしつゝある際、之が相談に應ずるの、用意あるを要す、此任務を盡すにつきては、踰越すへからざる困難に、遭遇することあるべく、それは又確かに入組みたる仕事にして、又危險なり。民衆の精神的指導を、託された人としては、窮乏及逼迫の壓迫に對し、多數貧困勞働者を保護するを以て、その切望となすの要あり、その日の生活に逐はれ困窮せる農民は、困しき生存競争のために、餘りに深くその心を奪はるゝため、その牧師の精神的勸奨を受け入れず、又は之を理解せざらん、而して經濟學の一般原則を特殊の地方事情に應用せんとするも、商況の推

移、物價の相違、諸地方の賃銀比較か、時々確
 かめらるゝに非ずんは、その目的を達し得へき
 に非ず、故に賃銀増額の要求に關聯して、惹起
 する諸問題を、完全に了解するためには、勞
 働者の意中に於て、その助言を惜らんとせられ
 つゝある、人々としては、諸事情の成行を、周
 到に注意すること肝要なり、the Concordance
 同様に the Economist は、研究するゝの要あり、
 製造工業に關する技術的知識は、賃銀値上げの
 一要求か、至當なるや否やにつき、意見を立つ
 るために、必要なることなし、爭議の當事者よ
 り、集めたる諸事實を比照校査し、争はるゝ當
 該問題の得失につき、穩健なる判斷を立つるた
 めには、特殊の技術的經驗よりも、公平不偏な
 る心を必要とす、實際を益すへきかゝる仕事か
 一僧侶により仕遂けられては、世に濟ますとす
 へき、理由全くなし、素よりかゝる調査審議は
 その當面の性質上、大多數の僧侶か、その腦を
 煩はせる思想範圍よりは、遠く隔たれり、かく
 て又是等の事柄を了解すへき、傑出せる適才か

僧徒の間に發見さるへきことを、期待するは當
 を得ざらん、一面法教師の如く、その職業多岐
 に亘るものにありては、各別にその長所を異に
 せる、人々あるを要す、一部の人は特に冥想に
 長し、他の一部は説教に、他の一部は俗界日常
 のことにつき、實際の慈恩を施すに長すること
 起り得へし、是等の人々は各々その分に應して
 なすへき仕事あり、承認せらるへきは、一僧侶
 としては必然、説教壇、教場及研究に、牽制せ
 らるゝとすへきに非ること、日常生活上起るへき
 實際困難解決のため、その信徒を助くへき局面
 に立てる際、眞にその事に當るへき、機會を生
 じ得へきことに外ならず。労働者の助言者たる
 も、その助言か穩健なる一立脚地に立てらるゝ
 こと、何時も鮮明に顯はれんか、労働者に不利
 なる、一裁決を與ふるに拘はらず、その勢力を
 墮さんことを、憂ふるの事由全くなからん。
 特に資力の慶福に、浴しつゝある人々により
 脩得さるへき一教訓あり、一問題の經濟學理と
 しては、何を以て正當となし得へきかを問はず、

又法律上政治上の理由よりせば、財産權を極力辯護すること、斷乎として至當となし得へきに拘はらず、經濟學理、法律の原則又は政治學を、解し得ざる貧民よりせんか、社會の諸階級間に、富の不平等分配あるは、外觀上不公平視さるへし、富者かその富を擁しつゝ、貧者に容れられ得へきは、社會全般を利すへき諸用途に、惜しけもなくその資金を、投することによりてのみ然りとす、社會主義の教師として、説得の功最も多きを得へきは、弊習の趣味を充たし、酒色に耽溺し、私慾の快樂を貪り、又は一身の虚飾を恣まにするため、その富を使用すへき人々にあり、財産權の擁護に當りて、成功し得へき人は、Lord Boling broke の卓見を、奉ずる者に限り、その所見に曰く、「國への奉公にその身を捧けたる人は、快樂の完全使用を許さる、之か濫用は何人にも許さるへきに非ず、僅か許りの奉公なればとて、吾人の公共的義務を、絶えず果たし行くの事實とは兩立す、否最大奉公はその中より起る」と。